

南部「御城印」プロジェクト 御城印販売先

1 種里城 たねざとじょう 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字種里町

販売先 光信公の館★
 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字種里町字大柳 90(城内)
 電話 : 0173-79-2535
 開館時間 : 9時~17時 ※9月以降16時30分まで
 休館日 : 月~木曜日(ただし祝日は開館)
 ※11月~翌4月は冬季休館(販売休止)

販売先 2 鰺ヶ沢町中央公民館★
 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字本町 209-2(城から約13.5km)
 電話 : 0173-72-2859
 開館時間 : 9時~16時
 休館日 : 土日・祝日 ※11月~翌4月は販売休止

2 浪岡城 なみのかじょう 青森県青森市浪岡大字浪岡五所

販売先 青森市中世の館★
 青森県青森市浪岡字岡田 43(城館隣接)
 電話 : 0172-62-1020
 開館時間 : 9時~17時
 休館日 : 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、
 毎月第3日曜日、年末年始(12月28日~翌1月4日)

3 野辺地城 のへだじょう 青森県上北郡野辺地町野辺地

販売先 野辺地町立歴史民俗資料館★
 青森県上北郡野辺地町字野辺地 1-3(城館内)
 電話 : 0175-64-9494
 開館時間 : 9時~16時
 休館日 : 月曜日(祝日の場合はその翌日も)、祝日、年末年始(12月29日~翌1月3日)

4 七戸城 しちのへじょう 青森県上北郡七戸町字七戸ほか

販売先 七戸町観光交流センター★
 青森県上北郡七戸町字荒熊内 207(城から約3km)
 電話 : 0176-51-6100
 開館時間 : 9時~18時(年中無休)

5 根城 ねじょう 青森県八戸市大字根城字根城

販売先 1 史跡根城の広場本丸受付
 青森県八戸市大字根城字根城 47(城内)
 電話 : 0178-41-1726
 開場時間 : 9時~17時
 休場日 : 月曜日(第一月曜及び祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土日の場合は開館)、
 年末年始(12月27日~1月4日)

販売先 2 八戸市博物館★
 青森県八戸市大字根城字東構 35-1(城館隣接)
 電話 : 0178-44-8111
 開館時間・休館日 : 販売先1と同じ

6 聖寿寺館 しょうじゅうたて 青森県三戸郡南部町大字小向字館跡

販売先 史跡聖寿寺館跡案内所★(城館隣接)
 青森県三戸郡南部町大字小向字正寿寺 81-2
 電話 : 0179-23-4711
 開館時間 : 9時~16時30分
 休館日 : 年末年始(12月29日~1月3日)

7 三戸城 さんこのへじょう 青森県三戸郡三戸町大字梅内字城ノ下

販売先 三戸町立歴史民俗資料館★
 青森県三戸郡三戸町大字梅内字城ノ下 34-29(城内)
 電話 : 0179-22-2739
 開館時間 : 9時~16時
 休館日 : 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開館)
 ※12月~翌年3月は冬季休館(販売休止)

8 九戸城 くのへじょう 岩手県二戸市福岡字城の内、松の丸

販売先 二戸市埋蔵文化財センター★
 岩手県二戸市福岡字八幡下 11-1(城から約1km)
 電話 : 0195-23-8020
 開館時間 : 9時~17時
 休館日 : 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土・日を除く)、
 年末年始(12月29日~1月3日)

9 姉帯城 あねたいじょう 岩手県二戸郡一戸町姉帯

販売先 御所野縄文博物館
 岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野 2(城から約6km)
 電話 : 0195-32-2652
 開館時間 : 9時~17時
 休館日 : 毎週月曜日(月曜祝祭日の場合は、その翌日)、
 祝日の翌日(土日を除く)、年末年始

10 久慈城 くじじょう 岩手県久慈市大川1丁目

※お車で来城の際は久慈城隣接、山口地区農業技術伝承館駐車場をご利用ください。
販売先 道の駅くじ「やませ土風館」★
 岩手県久慈市中町二丁目 5番6(城から約6km)
 電話 : 0194-66-9200(一社)久慈市観光物産協会
 開館時間 : 9時~19時
 休館日 : 1月1日

11 盛岡城 もりおかじょう 岩手県盛岡市内丸1

販売先 もりおか歴史文化館★
 岩手県盛岡市内丸 1-50(城内)
 電話 : 019-681-2100
 開館時間 : (4月~10月) 9時~19時、(11月~3月) 9時~18時
 休館日 : 毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日)、年末年始(12月31日・1月1日)

12 高水寺城 こうすいじじょう 岩手県紫波郡紫波町二日町字古館

販売先 紫波町情報交流館 オガールプラザ内★
 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前 2-3-3(城から約2.5km)
 電話 : 019-672-2918
 開館時間 : 10時~21時30分
 休館日 : 毎週月曜日(祝日のときは翌日)、館内点検日(月末の平日)、年末年始

13 鍋倉城 なべくらじょう 岩手県遠野市遠野

販売先 遠野市立博物館★
 岩手県遠野市東館町 3-9(城館隣接)
 電話 : 0198-62-2340
 開館時間 : 9時~17時
 休館日 : 5~10月の月末日、11~翌3月の月曜日・月末日(月末日が祝日・日曜の場合は開館)、年末年始、資料特別整理日(11月24~30日、1月28~31日)

14 土沢城 つちざわじょう 岩手県花巻市東和町土沢

販売先 花巻市博物館★
 岩手県花巻市高松 26-8-1(土沢城から約8km・花巻城から約6km)
 電話 : 0198-32-1030
 開館時間 : 8時30分~16時30分
 休館日 : 年末年始(12月28日~1月1日)

16 金澤城 かねざわじょう 秋田県横手市金沢中野字安本館外

販売先 後三年合戦金沢資料館★
 秋田県横手市金沢中野字根小屋 102番地 4(城から約1km)
 電話 : 0182-37-3510
 開館時間 : 9時~17時
 休館日 : 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、12月28日~1月3日

※上記以外にも、諸事情により臨時休館日が発生する場合がございます。

★印の販売先は、「なんぶのワライン」期間中、「割印」押印が可能です(令和5年7月29日(土)~10月31日(火))。ただし同企画は、事情により、延期・中止する場合があります。

南部お城めぐりフェイスブック

南部お城めぐりの最新情報は、フェイスブックページをご確認ください。
 ⇒<https://www.facebook.com/NanbuGojoinProject/>



南部お城めぐりガイド

みなさんのお城めぐりのお供に。南部お城めぐりガイドもご活用ください。
 ⇒<https://hcm-hit.github.io/nanbu-castles-tours/>



南部「御城印」プロジェクト事務局

八戸市博物館(青森県八戸市大字根城字東構 35-1)
 電話 : 0178-44-8111

南部お城めぐり

南部「御城印」プロジェクト 御城印販売先情報



【御城印】とは

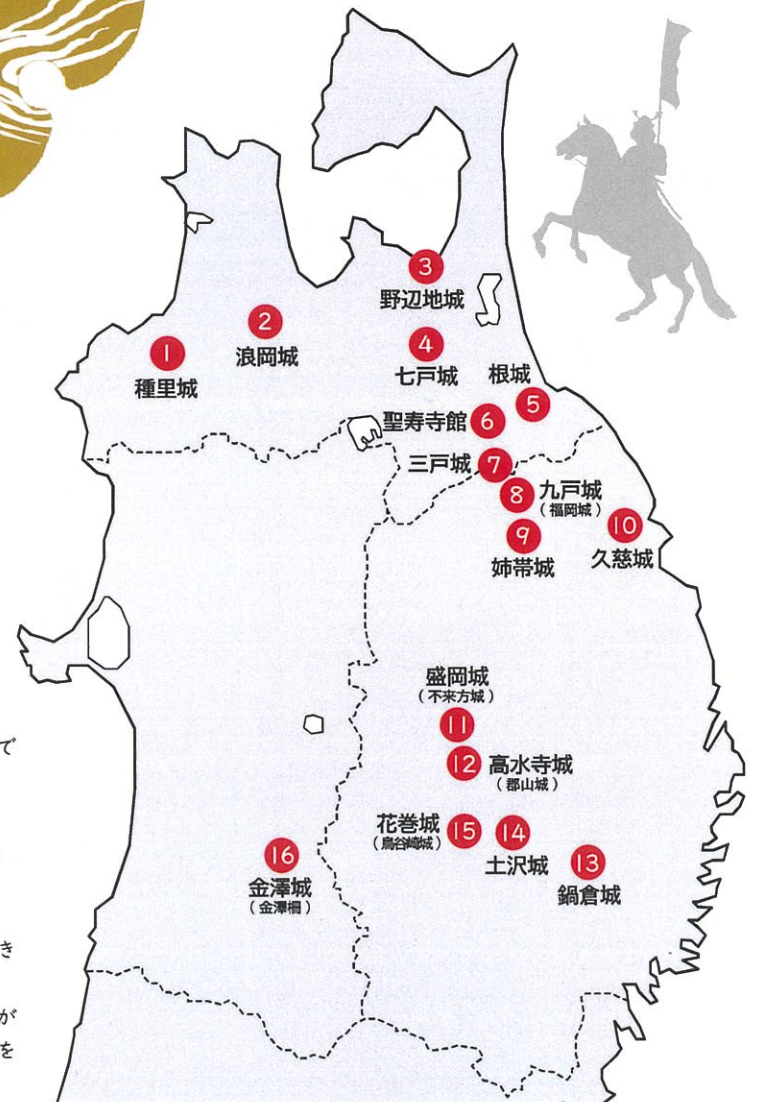
お城の歴史にゆかりある家紋や題字があしらわれた和紙のお札で、各城の来城記念となるものです。売上の一部は、各城の維持管理や整備・活用にあてられます。

【南部お城めぐり】とは

南北朝時代から江戸時代まで北東北を治めた南部氏。南部氏一族が築いた城館・城郭が連携し、それぞれの「御城印」を販売しています。かつて「三日月の丸くなるまで南部領」とうたわれた南部領の広さと歴史の深さを、「御城印」を通してご体感ください。


「御城印」購入の心得 セケ条

- 一、当事業の御城印はパンフレットなどで明記している販売先以外では購入できません。
- 一、当事業の御城印の販売価格は一律1枚300円(税込)です。
- 一、各販売先とも、休場日・休館日に御城印の販売はいたしません。
- 一、御城印は印刷物です。各販売先で題字の記帳は行いません。
- 一、当事業の御城印は郵送販売いたしません。
- 一、御城印を大量購入される方には、購入理由を確認させていただきます。
- 一、稀に、御城印が完売している場合がございます。また、販売先が臨時休館する場合もございます。販売先の状況を確認の上、足をお運び下さい。




1 たねさとじょう
種里城
■安藤氏との攻防最前線 津軽藩発祥の地
指定：国史跡
城主：大浦氏（津軽氏）
年代：延徳3年（1491）～江戸時代初期

「種里城」の文字は、昭和7年に建立された種里城址碑（高山松堂揮毫）の文字をもとにしている。「津軽藩発祥之地」の題字は、昭和51年、始祖光信公450年祭を記念し、津軽家第十四代義孝氏が揮毫し落款したもの。印は、城主光信公の家紋「蔓花菱」と、光信公を始祖と仰ぐ津軽家の家紋「杏葉牡丹」を用いた。
【蔓花菱】
弘前市の長勝寺（津軽家菩提寺）に伝わる光信公木像に付けられており、光信の家紋と推定されている。
【杏葉牡丹紋】
京都の関白近衛家の縁者（光信から3代目の大浦政信が近衛尚通の猶子）として使用が許された。近衛家の九枚葉に遠慮し、津軽家では七枚葉の牡丹紋を用いたという。




2 なみおかじょう
浪岡城
■浪岡御所と継承された北畠氏の末裔の居城
指定：国史跡、続日本100名城
城主：北畠氏
年代：1460年代～天正6年（1578）

「浪岡城跡」の部分は、故山内清城氏による書で浪岡城跡案内所の看板に使用されている。
御城印の家紋は、村上源氏の代表紋である「笹竜胆」と三春浪岡氏が所有していた陣笠や袴に描かれている笹竜胆紋（竜胆車）を圖案化して用いた。
【竜胆車】
三春浪岡氏は、江戸時代の文献により浪岡北畠氏の末裔である事が確認されている。三春藩の老老職を代々務めていた。ただし、今回圖案化した紋は、現在三春浪岡氏が使用している家紋ではない。




9 あねたいじょう
姉帯城
■姉帯氏の奮戦と悲壮な最期を物語る城
指定：町史跡
城主：姉帯氏
年代：築城年代不明～天正20年（1592）

「姉帯城」の文字は、町内の書家によるもの。御城印には、姉帯城跡の土坑墓から出土した3枚の和鏡のうちの1枚である「愛染明王菊花散蓮葉鏡」を圖案化して用いた。
【愛染明王菊花散蓮葉鏡】
姉帯城跡において検出された土坑墓のうち1基からは、副葬品と考えられる3枚の和鏡が出土した。このうちの1枚が「愛染明王菊花散蓮葉鏡」である。鏡の背文様には、上に愛染明王、下に州浜、右に蓬来山、左に雀が2羽、全体に菊花が描かれており、縁の内側には1列の縦線文様帯がめぐる。中央部のつまみ部分には亀が配置される。鏡は薄く、長年にわたり磨かれ、大切に使用されたものであろう。




10 くじじょう
久慈城
■草木の下に在りてなお、中世の趣を伝える久慈氏の居城
指定：県史跡
城主：久慈氏
年代：文明年間（1469～1487）～天正20年（1592）

「久慈城」の文字は、市内の書家が揮毫。久慈城が所在する地名として「南部久慈大目川」を表記した。御城印の家紋は、「久慈菱」・「二重菱に五三桐」・「卍」を使用。
【久慈氏と家紋】
久慈氏の直系は「九戸一揆」により滅亡したが、市内の家紋研究者により、今回使用した「久慈菱」・「二重菱に五三桐」・「卍」の3つの家紋が使用されていたと考えられる。
久慈氏は「久慈菱」紋を用いることが多いとされ、古文書には「二重菱に五三桐」・「卍」を用いたとの記載が見られる。




3 のへじじょう
野辺地城
■津軽領に接する藩境の城
指定：なし
城主：津軽氏ほか
年代：築城・廃城年代不明（天正20年（1592）には存在）

「野辺地城」の文字は、町内の書家による。
御城印の家紋は、南部家の家紋「向鶴紋」を使用した。デザインの家紋は、野辺地の旧南部盛岡藩士・飯田源五衛門の子孫が、大正2年9月8日に野辺地町へ御来遊した旧南部盛岡藩主から下賜された三方と木盃にあしらわれていたものを用いた。飯田源五衛門は、『雑書』にも出てくる鳥撃ち御給人であった。
【野辺地湊とは】
野辺地湊は盛岡藩有数の商港であった。明和二年（1765）、盛岡藩は尾去沢鉾山（秋田県鹿角市）を藩の直営とし、翌年から同港より御用銅を大坂に向け積み出した。野辺地湊には御用銅のほか、藩内大豆やメ粕等の特産品が集まるとともに北前船により各地の品物が集まり、港は発展し、町も交通の要衝として栄えた。




4 しちのへじょう
七戸城
■南部氏最北の防衛拠点
指定：国史跡
城主：七戸南部家
年代：14世紀後半～16世紀後半

「七戸城」と「昭和十六年十二月十三日指定」の文字は、昭和18年に建立された史蹟七戸城址碑の文字をもとにしている。
御城印には、町民から寄贈された「長持」に描かれている盛岡南部家の家紋「向鶴紋」を用いた。
【長持と向鶴紋】
長持は衣装・寝具の収納や、花嫁が嫁入り道具の入れ物として主に近世に使用されたものである。七戸南部家の家紋の詳細は定かではないが、寄贈された長持がつくられた時期には盛岡南部家の向鶴紋を使用していたと考えられる。
【割菱紋】
甲斐源氏の流れをくむ南部氏が古くから使用していた家紋といわれている。




11 もりおかじょう
盛岡城
■盛岡藩主南部家の居城
指定：国史跡・日本100名城
城主：盛岡南部家
年代：慶長年間（1596～1615）～明治7年（1814）

「盛岡城」の文字は、江戸幕府老中の盛岡城普請（補修工事）許可証の文字を使用。家紋は盛岡南部家の定紋「双舞鶴」を用いた。
【双舞鶴】
「双鶴紋（そうかくもん）」「向鶴（むかいづる）」などと呼ばれるが、盛岡南部家に伝来した系譜や系図などでは「双舞鶴」と記される。翼を広げた2羽のツルが向かい合った形の紋で、向かって右が口を開いた「あ・うん」の形になっていること、ツルの胸に「九曜紋」が施されることが特徴。『南部系図』によると、13代当主・南部守行の頃、秋田の安藤氏との戦の折に陣中で兵の士気高揚のための宴を催したところ上空に2羽の鶴が現れ（または陣中に舞い降り）、その後戦に勝利をおさめたことを記念してこれを家紋としたとされる。




12 こうすいじじょう
高水寺城
■寺院から城館へ、北上川を望む名門斯波氏の居城
指定：町史跡
城主：斯波氏、三戸南部家
年代：建武2年（1335）～寛文7年（1667）

「高水寺城」の筆文字に、斯波氏の家紋「五七桐」を配置し、城域東部にある「二日町嘉永三年碑（紫波町指定有形文化財）」に刻まれた「キリク（阿弥陀如来：上）」「サ（聖観音菩薩：左）」「サク（勢至菩薩：右）」の阿弥陀三尊の種子をあしらい、寺院から中世城館への移り変わりを表現している。
【高水寺斯波氏】
鎌倉時代中頃、足利氏は斯波郡を所領とし、その子孫が「斯波氏」を称した。斯波は足利一門筆頭の家格とされ、有力な守護大名であった。高水寺城を拠点とした一族は高水寺斯波氏と呼ばれていた。250年余の間、斯波郡を治めたが、天正16年（1588）、斯波詮直が南部信直に敗れ、高水寺斯波氏は滅亡した。その後、高水寺城は、南部氏によって「郡山城」と改められた。




5 ねじょう
根城
■300年にわたる根城南部家の本拠
指定：国史跡、日本100名城
城主：根城南部家
年代：建武元年（1334）～寛永4年（1627）

「根城」の題字は、根城南部家第36代南部日實氏の揮毫による史跡根城跡石碑（昭和18年建立）の文字を使用した。
家紋には根城の城主であった根城南部家の家紋「向鶴紋」を使用した。
題字以外の文字は市内書家在家溪静による。
【向鶴紋】
南部氏は甲斐源氏の流れをくむ一族で、家紋は割菱や九曜紋を使っていた。室町時代（応永16年）、秋田の安藤氏との戦の際、城主の弟・南部光経は、2羽の鶴が舞い降り、9個の星が降ってくる縁起のいい夢を見た。そこから、胸に9個の星（九曜）を抱いた2羽の鶴の家紋とした「向鶴」を使うようになった。




6 しょうじゅうじたて
聖寿寺館
■南部一族の盟主 三戸南部家の居館
指定：国史跡
城主：三戸南部家
年代：15世紀前半～天文8年（1539）

弘前市在住の書道家・中堂住吉氏の書を、南部町出身のデザイナー・上山保治氏がデザインし、聖寿寺館を築城したと考えられる十三代南部守行公の肖像画背後の旗指物に描かれた南部氏の家紋「向鶴」をあしらっている。
【向鶴紋】
聖寿寺館跡中心区画で確認された当時としては東北最大級の掘立柱建物跡を構成する柱穴からは、向鶴銅製目貫金具（町指定文化財）が出土しており、少なくとも16世紀前半段階では既に南部氏が向鶴紋を用いていたことが明らかとなっている。




13 なべくらじょう
鍋倉城
■仙台藩との藩境に築かれた天然の要害
指定：国史跡
城主：阿曾沼氏、遠野南部家
年代：天正年間（1573～1593）～明治2年（1869）

「遠野南部 鍋倉城」の筆文字に、城主であった遠野南部家の家紋である「向鶴紋」及び「九曜紋」を配置した。
台紙左下には鍋倉城の女殿様「清心尼公」のイラストをあしらった。
【清心尼公とは】
近世初頭に遠野（根城）南部家当主を勤めた女性。根城南部家19代当主八戸直栄と三戸南部家26代当主南部信直の娘千代子の間に生まれ、婿に迎え入れた夫の直政と、嗣子久松が没したことを受け、同家の家督を継承した。中世以来の所領である八戸と、後に転封となり移り住んだ遠野を良政したと伝えられる。




14 つちざわじょう
土沢城
■仙台藩境に築かれた守備固めの城
指定：市史跡
城主：江刺氏
年代：慶長17年（1612）～寛文10年（1670）

「土沢城」の文字は、市内の書家による。中央上部に配置した城主江刺氏の家紋「丸に三つ柏紋」は、江刺氏の菩提寺嶋峯山浄光寺所蔵のお膳に描かれたものを用いた。また、左上の「月星紋」と右下の「九曜紋」は、浄光寺の山門にあしらわれたものを用いた。
【家紋由来】
土沢城主江刺氏は、中世段階には葛西氏家臣であった。そのため葛西氏と同じ「三つ柏」を意匠した家紋とする。また、「月星紋」と「九曜紋」は関東御家人千葉氏の流れをくむ葛西氏が使用していた家紋の一つである。なお、「月星紋」はあえて旧主君葛西氏とは逆転した意匠としている。




7 さんのへじょう
三戸城
■三戸南部家戦国最後の居城
指定：国史跡
城主：三戸南部家（南部晴政、晴継、信直、利直）
年代：15世紀～17世紀

「三戸城」の文字は、盛岡南部家第46代南部利直氏か揮毫（落款印もご本人のもの）「御城印」は、南部家の定紋「向鶴紋」を使用。
【向鶴紋】
南部家の史書には、吉をもたらす鳥として2羽の鶴が度々登場し、この由来から南部家では「向鶴紋」を家紋に定めたと言われている。円の中に翼を大きく広げた2羽の鶴が向かい合い、右の鶴は口を開け、左の鶴は口を閉じることから「阿吽」を表し、鶴の胸には九陽紋が付く。
【割菱紋】
「割菱紋」は、甲斐源氏である武田氏の系統と関係が深く、古い時代の南部家の紋とされている。紋の紫色については、かつて三戸の名産であった南部紫根を意識したもの。




8 くのへじょう
九戸城
■奥羽再仕置軍を迎え撃った九戸氏の堅城
指定：国史跡、続日本100名城
城主：九戸氏、三戸南部家
年代：明応年間（1492～1501）～寛永13年（1636）

「九戸城」の文字は、市内の書家によるもの。印には、九戸氏の菩提寺である長興寺の寺紋及び九戸氏ゆかりの九戸神社の神紋である「九曜紋」を用いた。
【九戸氏と九曜紋】
現在、九戸氏の家紋として九曜紋が広く用いられているが、『参考諸家系図』によると、「丸ノ内鶴」・「割菱」とあるが詳細は不明である。
九曜紋は、中心に円を描き、その周囲に円を並べる「曜紋」で、中央のおおきな円のまわりに八つ小さな円を囲んだものである。



15 はなまきじょう
花巻城
■伊達を見据えた南部領南端の城
指定：市史跡
城主：北氏、三戸南部家
年代：天正19年（1591）～明治6年（1873）

「花巻城」の文字は、花巻城代・北信愛による『永代安堵之事』の文字を使用。印には、城主南部政直公の菩提寺天巖山宗青寺に納められている位牌にあった南部家の家紋「向鶴紋」を用いた。また、左下には政直公の黒印を押す。
*題字以外の書：松平志保
【北信愛とは】
中世段階から三戸南部家に忠誠を尽くした譜代家臣北家の当主。主家三戸南部氏から厚い信任を受け、慶長3年（1598）以降は、花巻城代を務めた。



16 かねざわじょう
金澤城
■金澤藩から金澤城へ
指定：なし
城主：金沢右京亮、南部右京亮（三戸南部家の子息力）
年代：14世紀後半～元和8年（1622）

「金澤城」の文字は、市内の書家によるもの。御城印の家紋は、金澤城跡二の丸に鎮座する金澤八幡宮で、神社紋として使用されている「笹竜胆」と「五本骨扇に月丸」を用いた。印影は、金澤八幡宮の神社印。
【笹竜胆】
清和源氏の代表的な家紋で、金澤八幡宮では社紋としても使用されている。金澤八幡宮は後三年合戦後に源義家が藤原清衡に命じ、京都の石清水八幡宮を勧請して金澤柵跡地に八幡神を祀った神社と伝えられている。
【五本骨扇に月丸】
佐竹氏の家紋で、佐竹氏の始祖は金澤柵の戦いに参戦した源義光である。関ヶ原合戦後、秋田に転封された佐竹氏が金澤八幡宮を代々厚く崇拝した。

